

北信地域 (中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村)

北信地域の特性

長野県の北の玄関口として最北端に位置する北信地域は、千曲川が中央を流下し、高社山より北の地域は、最深積雪が2mを超える全国有数の豪雪地帯となっています。

人口は、1980年から減少しており、2022年4月1日現在、80,460人ですが、国立社会保障・人口問題研究所によると、2045年には52,490人まで減少するとともに、老年人口が生産年齢人口を上回ると推計されています。

この地域は、県内有数の米、果樹、きのこの産地である農業と、志賀高原や斑尾高原などの雄大な自然に加え、湯田中渋温泉郷、野沢温泉、秋山郷など豊富な地域資源を活用した観光業が基幹産業となっています。

【管内の概況】

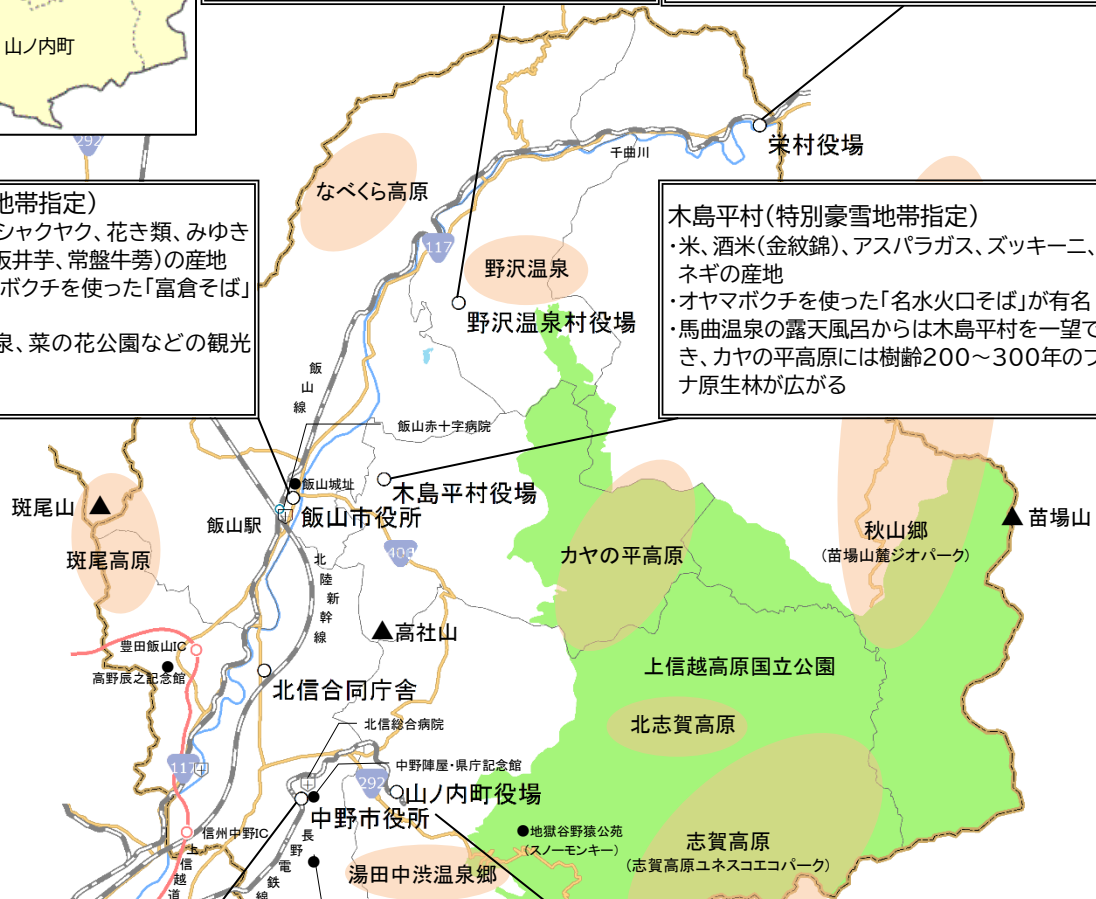


野沢温泉村(特別豪雪地帯指定)
 ・30余の源泉があり、全て掛け流し100%の天然温泉
 ・スキー場は最長滑走距離10kmで日本最大級の規模を誇る
 ・伝統野菜(野沢菜)、米の産地
 ・麻釜(天然記念物)、道祖神祭り(国重要無形民俗文化財指定)などが有名

栄村(特別豪雪地帯指定)
 ・米、山菜、アスパラガス、伝統野菜(ししこしょう)の産地
 ・日本百名山「苗場山」の麓、マタギが暮らす秋山郷は日本秘境100選の一つで、ほぼ全域が苗場山麓ジオパークに認定
 ・伝統工芸品のねこつぐら等「栄村つぐら」(県知事指定)が有名

飯山市(特別豪雪地帯指定)
 ・米、アスパラガス、ジャクヤク、花き類、みゆきポーク、伝統野菜(坂井芋、常盤牛蒡)の産地
 ・「笹ずし」や、オヤマボクチを使った「富倉そば」が有名
 ・斑尾高原、戸狩温泉、菜の花公園などの観光地がある
 ・寺と仏壇のまち

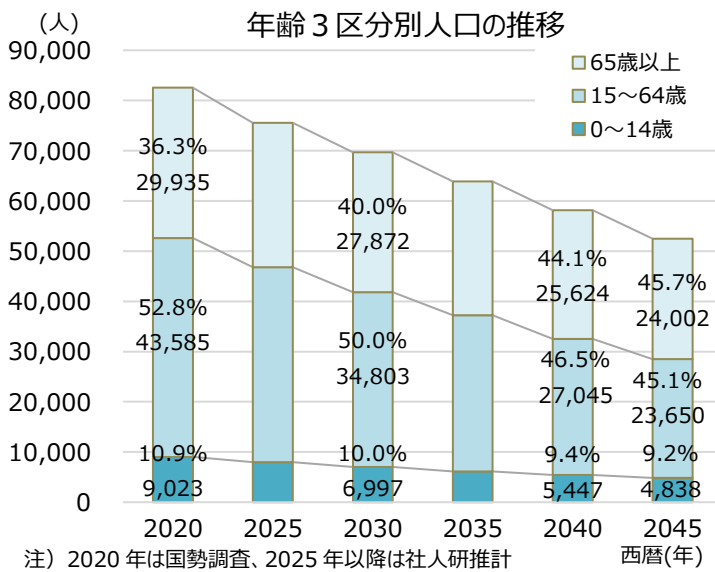
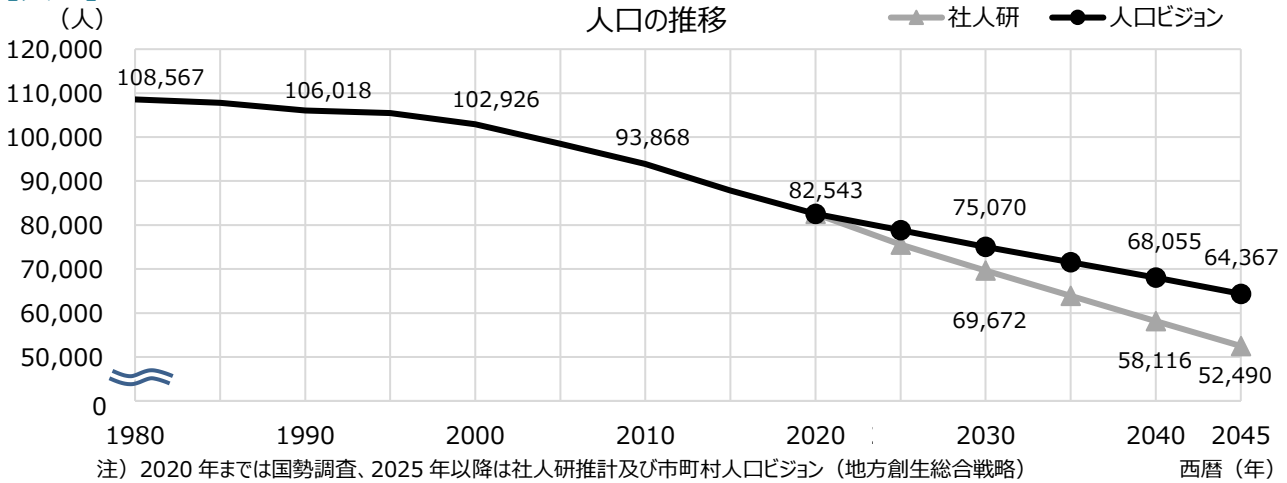
木島平村(特別豪雪地帯指定)
 ・米、酒米(金紋錦)、アスパラガス、ズッキーニ、ネギの産地
 ・オヤマボクチを使った「名水火口そば」が有名
 ・馬曲温泉の露天風呂からは木島平村を一望でき、カヤの平高原には樹齢200~300年のブナ原生林が広がる



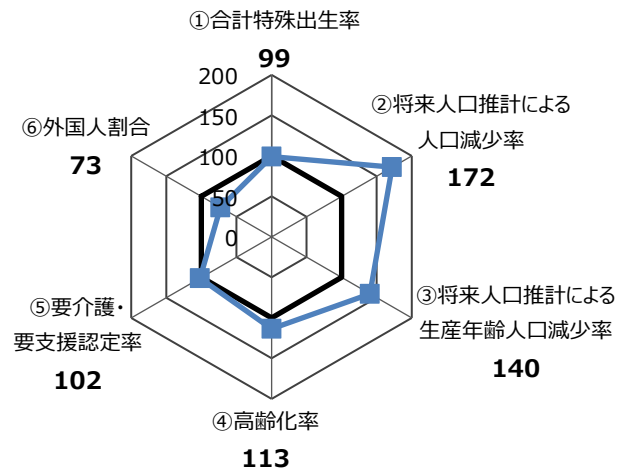
中野市(豪雪地帯指定)
 ・えのきたけ等のきのこ類、りんご、ぶどう、もも、すもも、さくらんぼ、ジャクヤク、伝統野菜(ぼたんこしょう)の産地
 ・3000株のバラが咲き誇る一本木公園や全国各地に愛好家がいる中野土人形がある
 ・中山晋平、高野辰之の出身地

山ノ内町(特別豪雪地帯指定)
 ・180を超える源泉が湯田中渋温泉郷を中心とした湯量豊富な温泉街を形成
 ・りんご、ぶどう、伝統野菜(前坂大根)の産地
 ・オヤマボクチを使った「須賀川そば」が有名
 ・ほぼ全町が志賀高原ユネスコエコパークに登録、スノーモンキーや志賀高原、北志賀高原のスノーリゾートは国際的にも知名度が高い

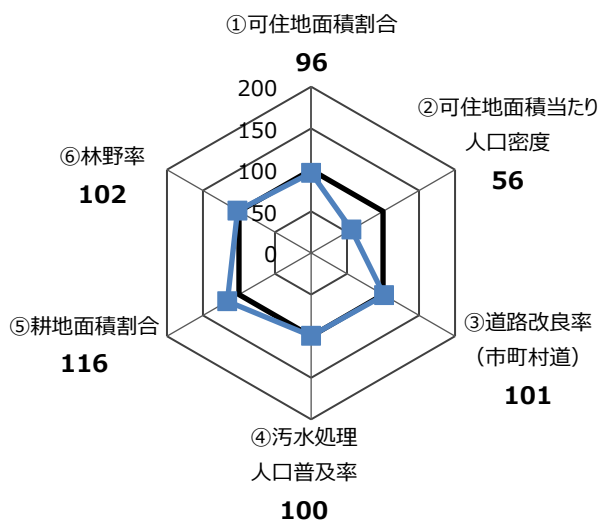
【人口】



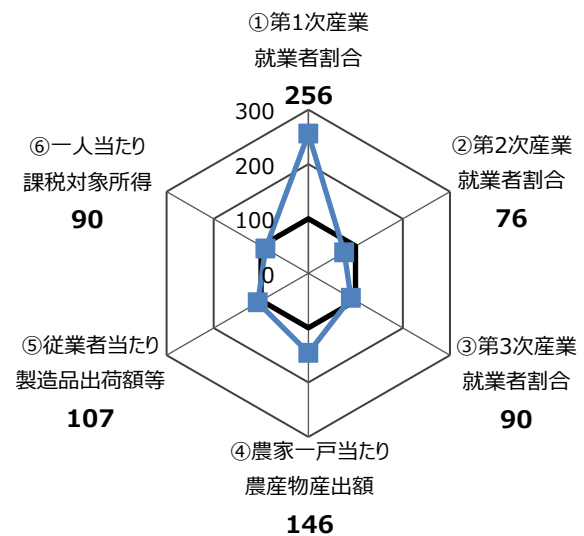
【地域の特徴(人口)】



【地域の特徴(地勢)】



【地域の特徴(産業)】



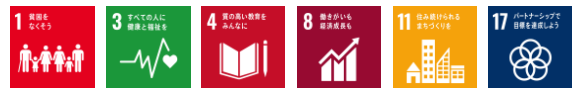
注) 長野県を100として北信地域と比較(指数)

- ・人口は、1980年から減少が続くとともに、年齢構成も年少人口、生産年齢人口が減少し、人口減少率、生産年齢人口減少率は、県平均を大幅に上回ると推計され、2045年には老年人口(65歳以上)が生産年齢人口(15~64歳)を上回るとされています。
- ・第1次産業就業者割合や農家一戸当たり農産物産出額が県平均を大幅に上回っている一方、第2次・第3次産業就業者割合は県平均を下回っています。

豊かな大地と自然に恵まれたふるさと 雪とともに暮らす北信州

- ・北信州で生まれ育った住民だけでなく、この地域に愛着を感じ訪れる人達も、ふるさと北信州を愛し、この地域で過ごし、交流が生まれています。
- ・高い生産技術により、米・果樹・きのこなどの一大産地として発展するとともに、温泉・スノーリゾートや夏のアウトドアなどの観光資源の魅力向上を図り、一年を通じて活気にあふれています。
- ・人々の暮らしに必要な生活基盤が整っており、全国有数の豪雪地帯であっても、高齢者から子どもまで、地域に根差した生活が営まれています。

地域重点政策



1 北信州に生まれ・育ち・集まる人々が、交流し活躍する暮らしの推進

自然に恵まれ、故郷の原風景が広がる唱歌「ふるさと」にも唄われた北信州で、郷土愛にあふれた子どもを育てるとともに、移住からつながり人口*の創出まで、この地域に愛着を感じる人々が集い、若者が定着するよう支援します。

【現状と課題】

- ・人口減少に加え、地域を支える人々の高齢化、若年層の減少が進み、空き家の増加や集落機能の低下を招いています。
- ・地域内に高等教育機関がなく、進学に伴い一定の若年層が地域を離れてしまうため、故郷北信州の魅力、郷土愛を育むためのふるさと教育の一層の充実が求められています。
- ・地域活性化と地元への定着が期待される地域おこし協力隊*へは、地域の課題に挑む活動と定着に向けた、積極的な支援が求められています。
- ・ICT*（情報通信技術）の技術進歩により柔軟な働き方が選べるようになり、世界中から人々が集い、雄大な自然に抱かれた北信州での生活が注目されています。

【取組内容】

●郷土愛を育み、子育て世代が安心して暮らせる地域づくりの推進

- ・県立高校において地域の文化や産業等を学ぶふるさと教育を進めるとともに、新しく設置が進められている中野総合学科新校（仮称）を含め、地域課題に向き合う人材を育成
- ・安心して子どもを産み、地域で健やかに育てられる環境をつくるため、関係機関と行政の情報の共有により連携を図り、地域課題や住民のニーズに即したサービスの提供を推進
- ・市街地道路の利便性向上や歩行者空間の確保等による魅力ある街並みづくりと通学児童・生徒の安全確保を推進



県立大 CSI による探究的な学びの支援（飯山高校）

●若者の定着に向けたキャリア教育*や起業、就労の場の確保の推進

- ・県立高校において、地域の農業や産業と連携し、生徒が自ら問いを立てチームで協働しながら解を見つけていく「探究的な学び」を推進
- ・魅力ある商品やサービスの開発・販路開拓など地域の活性化につながる事業の展開や創業、起業を支援し、



地域おこし協力隊定着支援研修会

若者の就労の場を確保

- ・地域おこし協力隊*の任期後の地域への定着に向けた市町村の受入体制の整備とともに、地域課題を解決するための起業を支援
- ・高校生への就労体験等を通じた建設業をはじめとする地域産業への就労を支援

●北信州の雪と緑を求める移住者、つながり人口*創出の推進

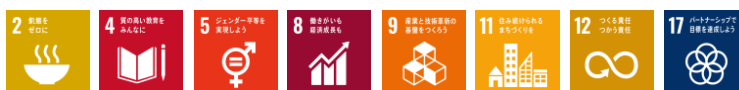
- ・北信州の自然やライフスタイルの発信を通じて、地域と交流し、地域を応援するつながり人口*の創出を図るとともに、外国人を含む多様な移住者の定着を推進
- ・空き家情報を市町村と共有し、新規就農者や移住希望者向けに紹介する等の活用を推進
- ・長野県と新潟県に広がる秋山郷の魅力を発信するため、県域を越えた取組を推進



秋山郷 小赤沢集落(栄村)

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
社会増減 毎月人口異動調査（企画振興部）	△123人 (2022年)	0人 (2027年)	北信地域外との転出入の差 [2027年での均衡を目指して設定]
創業件数 (産業労働部調)	20件 (2017~2021 年度累計)	現状以上 (2023~2027 年度累計)	創業・新規開業認定件数 [現状を上回ることを目標に設定]
地域おこし協力隊員の定着率 (企画振興部調)	73.5% (2017~2021 年度平均)	76.7%以上 (2023~2027 年度平均)	任期終了後、県内に定住した地域 おこし協力隊員*の割合 [県全体の直近5年間の定着率を 目標に設定]
移住者数 (企画振興部調)	178人 (2021年度)	270人 (2027年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内 の転出予定者などを除く県外から の転入者数 [県全体の目標を基に設定]



2 北信州の自然を活かした、収益性の高い農業・国際競争力の高い観光業の振興

地域の主要な産業の農業と観光業については、高品質な米、果樹、きのこ等の安定的な生産体制の整備と冬季に留まらず年間を通じて各地から人々が訪れる観光地域づくりを推進します。

さらに、次代の担い手の育成を支援し、持続可能な産業としての位置付けを確立します。

【現状と課題】

- ・農業では、水稻やりんご、ぶどう等の果樹のほか、全国トップクラスの生産量を誇るきのこの栽培が盛んです。
- ・需要が高いシャインマスカット等を積極的に導入するなど市場競争力を確保するための取組が進められるとともに、ぼたんこしょう等の伝統野菜の栽培も行われています。
- ・観光では、長野オリンピック・パラリンピックの会場となった志賀高原や野沢温泉を始めとするスノーリゾートが国内だけでなく、海外からも高い評価を得ています。
- ・観光地の延利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響で、主に冬季が減少しており、国際的なスノーリゾートに加え、グリーンシーズンの観光誘客による通年型の観光地づくりが必要です。
- ・信越9市町村広域観光連携会議の「信越自然郷*」による広域観光に加え、長野圏域や新潟県の中越地域との広域的な連携も必要になっています。
- ・後継者不足による廃業が心配されており、次代の担い手の確保が求められています。

【取組内容】

●豊かな大地と自然に育まれた強みのある農産物の生産・消費拡大の推進

- ・果樹の県オリジナル品種やシャインマスカット等の導入・拡大、優良品種への改植等による産地ブランド力の向上を推進
- ・良食味米、業務用米、酒米の安定生産と認知度の向上を推進
- ・きのこの産地の信頼性を高める国際水準GAP*手法による衛生管理の推進と年間を通じた消費拡大を支援
- ・雪室等地域資源を活用した農産物の高付加価値化の取組を支援
- ・ドローン等の先端技術を活用したスマート農業*の普及や、農業用水利施設の自動化・遠隔化など（農業・農村のDX*）の推進とともに、老朽化した農業用排水路や畑地かんがい施設の長寿命化の計画的な実施による生産性の維持・向上
- ・企業的経営者や認定農業者など中核的経営体*の経営向上を支援



シャインマスカットの収穫



きのこGAP審査

●国際競争力の高いスノーリゾートの形成とグリーンシーズンのアクティビティ充実等による通年型観光の推進

- ・雄大な自然や地域の観光資源・文化等を映像で発信し、観光PRと誘客を促進
- ・グリーンシーズンにおける誘客促進のため、信越トレイル*をはじめとするトレッキングや森林セラピー®、サイクルツーリズム、かわまちづくり*等の推進に係る環境整備や、地域を越えた連携を支援
- ・北信州の川や森、雪などの自然をはじめ、歴史・文化・食を有効活用し、国内外を問わない誘客から長期滞在・再来訪等される地域づくりを推進



野沢温泉スキー場



千曲川サイクリング

- 信越自然郷*を中心とした県域を越えた広域観光の推進
 - ・北信州ならではの観光資源や農産物のおいしさ、良質な酒米や仕込み水を育む土地や、そこから生まれる日本酒等の発信による、広域観光と通年型観光地域づくりを推進
 - ・北陸新幹線敦賀延伸を契機に、新幹線飯山駅やJR飯山線の利用者を増やすため、関西圏と接する福井県等と連携した誘客の促進
 - ・新幹線飯山駅などの交通結節点から、圏域内外の複数の観光地を結ぶアクセス道路の整備を推進



日本酒づくり

●次代の担い手の確保・育成

- ・就農希望者への相談事業や里親研修等により、新規就農者を確保するとともに、北信州農業道場（講座）や栽培講習会等の実践的な栽培技術の習得指導等を行い、農業経営体として育成
- ・パートナーシップ経営の推進により、若者や女性農業者等の誰もが能力を発揮でき、かつワークライフバランスの取れた農業経営を確立
- ・大学と連携したインターンシッププログラムの開発・運営等による、観光人材の発掘・確保
- ・就労支援アプリ等を活用した繁忙期の農業労働力を確保



北信州農業道場

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
果樹県オリジナル品種等の栽培面積 (農政部調)	460ha (2021年度)	620ha (2027年度)	果樹県オリジナル品種（クイーンルージュ®、シナノリップ、シナノパール等）とシャインマスカットの栽培面積の集計値 [第4期食と農業農村振興計画の目標を踏まえ設定]
観光地消費額 観光地利用者統計調査（観光部）	210億円 (2021年)	368億円 (2023～2027年平均)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [コロナ前水準(2015～2019年平均)を目標に設定]
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	401万人 (2021年)	700万人 (2023～2027年平均)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延べ人数 [コロナ前水準(2015～2019年平均)を目標に設定]
新規就農者数 (農政部調)	20人/年 (2021年度)	31人/年 (2027年度)	49歳以下の新規就農者数 [第4期食と農業農村振興計画の目標を踏まえ設定]



3 雪国の暮らしを支えるライフライン、地域医療など生活基盤の維持と確保

豪雪や自然災害から財産を守るとともに、高齢化が進む中で保健・医療・介護の連携や公共交通網等の生活基盤を維持し、この地域の人々の暮らしを支援します。

さらに、地域の特性を活かしながら、ゼロカーボンを推進します。

【現状と課題】

- ・全国有数の豪雪地帯にあって、冬季の生活基盤を確保するために、道路除雪に加え、高齢者等の生活を守るために生活エリアの除雪が必要になっています。
- ・高齢化が進み、医療と介護の連携や担い手の確保等が必要となっています。
- ・公共交通は利用者の減少が進んでいますが、自動車を運転できない人等の移動手段を確保するために役割の維持と機能の強化が求められています。
- ・幾度となく発生した河川の氾濫や土砂崩落等の自然災害から地域を守るため、県土の強靱化が必要になっています。

【取組内容】

●ライフライン、生活確保のための雪対策の推進

- ・市町村等と連携した道路除雪体制の確保と山間地のライフラインを維持するための取組を推進
- ・除雪や雪下ろし時の事故を防ぐため、市町村と連携した安全対策と克雪住宅の普及促進
- ・高齢化、過疎化が進み、降雪期に自宅からの外出が困難になる住民に対する、市町村と連携した生活エリアの除雪支援対策を推進



国道 117 号の除雪作業

●高齢社会に対応した保健・医療・介護の連携、公共交通基盤の維持

- ・降雪により冬季にさらに外出機会が減少しがちな高齢者等の介護予防や、伝統的な食文化により塩分摂取量の多い住民に対する食生活改善等の健康づくりを推進
- ・人口減少、高齢化、新興感染症の流行等による医療ニーズの変化に対応した医療機能の分化・連携を推進するとともに、医療提供体制及び地域包括ケア体制の構築に向け協議を推進
- ・交通情報のオープンデータ化*、Ma a S*の導入を踏まえ、快適な地域交通ネットワークの確保・維持に向けた取組を関係者と共に推進
- ・地域生活だけでなく、観光客も公共交通を利用しやすいよう、関係機関と共に二次交通*としてのバス路線の運行形態や案内等の整備を推進
- ・関係機関と協働した J R 飯山線及び長野電鉄長野線の利用促進策、沿線を含めた観光振興策の検討



食生活改善活動・塩分濃度測定

●気候変動を踏まえ安全・安心を確保するための県土の強靱化

- ・「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」や「長野県流域治水推進計画」の取組強化による水害リスクの軽減と浸水被害防止を推進
- ・農業用ため池など農業水利施設の豪雨・地震対策に加え、湛水被害の防止対策を補完するための農業用ため池等を活用した雨水貯留の取組を支援
- ・道路の迂回機能強化を推進
- ・土砂災害リスクを軽減するため、土砂災害の発生の恐れがある箇所を中心に土石流・地すべり・がけ崩れ対策を行うとともに、災害に強い森林づくりを推進



中条川の治山事業(栄村)

●地域資源を活かしたゼロカーボンの推進

- ・市町村や民間事業者が進める小水力、太陽光、バイオマス*等の再生可能エネルギー導入の取組支援や、活用事例の情報発信等を通じて、エネルギーの地消地産*を促進
- ・豪雪地帯の地域特性を活かし、雪を地域資源として利活用する取組を推進
- ・気候変動、環境問題、ゼロカーボンの取組を学ぶ場の提供や、再生可能エネルギーへの理解を深めることを通じた、地域住民の脱炭素社会づくりへの機運の醸成



まくね川小水力発電所(野沢温泉村)

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
除雪作業中の事故件数 (危機管理部調)	21.6件 (2017~2021 年度平均)	21件以下 (2027年度)	雪害報告のあったもののうち、除雪作業中の事故に係るものの件数 [現状を下回ることを目標に設定]
除雪作業講習会参加者数 (北信地域振興局調)	19.5人 (2019・2021 年度平均)	20人以上 (2027年度)	局が実施する除雪講習会参加者の延べ人数 [参加者数が現状以上となることを目標に設定]
要介護・要支援認定率 介護保険事業状況報告月報 (厚生労働省)	17.7% (2021年度)	18.5% (2027年度)	第1号被保険者(65歳以上)に占める要介護・要支援者の割合 [第8期高齢者プランの推計値(2025年度時点)の水準を目標に設定]
信濃川水系緊急治水対策プロジェクトによる治水対策整備数 (北信建設事務所調)	2箇所 (2022年度)	5箇所 (2027年度)	管内で県が実施している対策箇所数 [全箇所完了を目標に設定]